NGS通信 No.29 4月号

日本外壁仕上業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-1羽田ビル5F
TEL 03-3379-4338　FAX 03-3374-3982
E-mail：gaiheki@east.or.jp

東日本外壁仕上業協同組合（☎03-3374-3981）　福岡外壁仕上業協同組合（☎092-512-9141）
近畿外壁仕上業協同組合（☎06-6533-0768）　愛媛県仕上工事業協同組合（☎089-926-2067）

平成31年度通常総会を開催

新会長に野口陽一氏（日幸化学工業㈱社長）を再選！

当連合会は２月22日の午後３時より、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷において、平成31年度／第21回・通算52回）通常総会を開催しました。

小野澤昭専務理事の司会で定刻に開会。冒頭、挨拶に立った野口陽一会長は「平成30年度は、例年になく日本国内で多くの自然災害が発生し、大きな被害をもたらしました。特に大阪北部や北海道胆振東部の地震、西日本豪雨災害、さらには猛暑、大型台風の多発など、数十年に一度という深刻な災害の年となりました。建設業界におきましても人口減少と少子高齢化による担い手確保が深刻となり、その対策として働き方改革など政府から様々な施策が打ち出されました。特に専門工事団体に関しては、社会保険未加入対策、残業時間の削減や週休二日制、キャリアアップシステムの構築、外国人人材受け入れ対策など矢継ぎ早に打ち出される諸施策にその対応が迫られています。しかしながら専門工事業者の多くが、その経営体質の改善に苦慮し、痛みに喘いでいるのもまた事実です。当連合会は、この一年、技能者講習の開催を事業の中心に置いて活動して参りました。特に本年（平成30年）４月より登録基幹技能者が主任技術者として認められた効果もあり、講習受講者の増加に繋がり、結果として収益の改善にも貢献出来ました。今後も会員の増強、収益改善への取り組みに注力して参ります。また、技能者の育成、工事保証保険等の勧誘、働き方改革など様々な課題に対応し、組合員の増加に繋がる活動を展開していきたいと考えております。会員各位のご指導、ご協力をお願い致します」と挨拶しました。

総会では野口会長を議長に選出し、平成30年度事業報告承認の件、同年度決算報告書承認の件、監査報告の件、平成31年度事業計画（案）の件、同年度収支予算並びに経費の賦課及び徴収方法の件――の件の５案件について審議し、いずれも原案通り承認・決定しました。

この結果、新年度は昨年に引き続き①技能者育成に関する事業、②工事保証保険等の保険制度の充実、③建設技能労働者の人材確保・育成の促進や社会保険未加入問題など様々な待遇改善、④外壁仕上に関する啓蒙普及や情報提供――などを中心に会員の増強、連合会の収益事業拡充に向けての地道な取り組みを図っていくこととなりました。とりわけ、技能者育成については①一級技能者講習会（認定）を東京、大阪で７月に、②一級技能者講習会（更新）を東京、大阪、愛媛、福岡の地区で７月に、③登録基幹技能者講習会（更新）を東京、大阪、愛媛、福岡で７月に、④登録基幹技能者講習（認定）を東京、大阪で11月にそれぞれ実施することとなりました。

任期満了に伴う役員改選では、野口陽一会長を新会長に再選したほか、新たに副会長に池田貞伸氏（愛媛県仕上工事業協同組合理事長／竹林塗装㈱）および川口大介氏（福岡外壁仕上業協同組合理事長／川口吹付工業㈱）の氏を選任。また、監事には土方正芳（㈱原美装・新任）を選任致しました。新役員は別掲の通り。総会は４時過ぎ、盛会裡に閉会致しました。

［役　員］（敬称略）

□会長：野口陽一（日幸化学工業㈱）、□副会長：神農竹夫（ダイワテック㈱・留任）、高橋敦也（㈱ワールド工業・留任）、池田貞伸（竹林塗装㈱・新任）、川口大介（川口吹付工業㈱・新任）、□専務理事：西川岳人（明新工業㈱・新任）、□理事：吉澤永純（㈱エルシー・留任）、山崎睦治（山崎工業㈱・留任）、實松幹次郎（松美化建工業㈱・留任）、横谷英二（東大阪塗工㈱・留任）、宮澤健一（㈱ミヤザワ・留任）、矢野正幸（㈲矢野商会・留任）、草場芳里（クサバ工業㈱・留任）、□理事相談役：甲斐下雄司（アイワテック㈱・留任）、岩田紳一（㈱日興工業所・留任）、□監事：土方正芳（㈱原美装・新任）、加藤　廣（㈲加藤建材社・留任）

NGS・HGSが新年合同懇親会を開催

小俣氏がITの積極的導入や事業所内への保育所設置を提案

本連合会と、東日本外壁仕上業協同組合（高橋敦也理事長・㈱ワールド工業代表取締役社長）は総会（２月22日）語の午後５時30分より東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で新年合同懇親会を開催した。

懇親会は磯智徳氏（東日本外壁仕上業協同組合監事・㈲ネオシステム代表取締役）の司会で定刻に開会。冒頭挨拶に立った野口陽一会長は以下の

懇親会で挨拶する
野口 NGS 会長

乾杯の発声を行なう小俣一夫・
NPO法人湿式仕上技術センター
顧問

中締めの挨拶を行なう神農
竹夫・近畿外壁仕上協同組合
理事長

通り挨拶した。

懇親会の冒頭挨拶した野口会長は、「昨年を振り返ると、清水寺で発表された“今年の漢字”が『災』であったように、台風、地震など自然災害が頻発した年でした。昨日も北海道で大きな地震があり、早い復興を願うとともに、被害に遭われた方にはお見舞い申し上げたいと思います。また国際情勢も、米中の経済摩擦やイギリスのEU離脱問題など、先行き不透明感は一層増しており、予断を許さない状況です。そうした中、建設業界は、大手ゼネコンの決算がバブル期を超えたという話も聞こえ、オリンピック・パラリンピック後も工事の受注予定を数年は確保できているそうで、全体として建設需要は安定していると言えそうです。しかしながら、我々専門工事業者までそれが及んでいるとは思えず、我々も景気の良さを実感できるような状況に早くなってほしいと思っています。また、我々が抱える大きな課題である、人材不足の問題については、昨年、国交省より建設業働き方改革加速化プログラムが発表されました。すぐに対応するのはなかなか難しい面もありますが、若者の入職を増やすためには、週休二日制実施や、それを行うための工程の設定、仕事に見合った賃金体系などの確立は欠かせません。その一環として始まる建設キャリアアップシステムは、現場で働く人のスキルや実績などを“見える化”するものであり、それにより、能力が上がることで処遇も上がる仕組みができれば、働きがいある仕事として、若者が建設業に入職してくれるのではないかと期待しています。当連合会としても、外壁仕上一級技能者や、登録外壁仕上基幹技能者等の資格制度を中心に人材育成に注力し、業界をより魅力的なものにし、技能の継承にも取り組んでいきたいと考えます」と述べました。

次いで、NPO法人湿式仕上技術センターの小俣一夫顧問が登壇。小俣氏は、今後の人口減少、人手不足への対応策として、施工や業務への積極的IT導入や、組合員の事業所で保育事業を行うことによる地域コミュニティとのつながり強化など、ご自身の考えを披露し、乾杯の発声を行いました。

景品の抽選会も行われるなど和やかな雰囲気で進行した懇親会は、神農竹夫副会長（近畿外壁仕上業協同組合理事長）の中締めにより盛会裡に散会となりました。

ご臨席いただきましたご来賓は以下の通りです。

来賓／小俣一夫・NPO法人湿式仕上技術センター顧問、田中辰明・お茶の水女子大学名誉教授、石田信夫・（一財）建設業振興基金総務部長、青木裕・東京都中小企業団体中央会振興課長、越中谷光太郎・日本建築仕上材工業会事務局次長、鈴木浩之・全国マスチック事業協同組合連合会会長、会津健・東京都塗装工業協同組合理事長、伊東健夫・（一社）建設産業専門団体連合会事業部長、菅井文明・職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会富士教育訓練センター専務理事、名倉啓司・同東京事務所所長、大平延行・同専任講師。報道各社。

NGSの概要

■ 半世紀の歴史をもつ全国組織です ■

日本外壁仕上業協同組合連合会（本部／東京都・会長／野口陽一：略称NGS）は、昭和42年に日本建築仕上材工業会の前身である日本防水リシン工業会の施工部門が独立して設立された建築吹付工事の専門家組織です。今日、外壁仕上協同組合連合会所属の会員会社は、吹付・塗装を業務の核としながらも、屋根・防水・内装工事など幅広い事業展開をしており、時代が求める総合リフォームのプロ集団へと変貌を遂げつつあります。国土交通省の行政指導のもと以下の全国５地区に事務所を置く協同組合の連合体です。活動状況など詳しくは本部事務局または各組合事務局にお訊ね下さい。

□東日本外壁仕上業協同組合（理事長：高橋 敦也）
□近畿外壁仕上業協同組合（理事長：神農 竹夫）
□愛媛県仕上工事業協同組合（理事長：池田 貞伸）
□福岡外壁仕上業協同組合（理事長：川口 大介）

■ 登録外壁仕上基幹技能者を育成 ■

登録基幹技能者制度は、建設産業の労働生産性の向上、品質・性能・安全の確保のために建設27業種35団体で整備された制度です。基幹技能者は、専門工事業種ごとの高度な専門知識・技能を有するだけではなく、建設一般に関する幅広い知識を有する人材です。それゆえに、現場の実態に応じた的確な施工方法を技術者に提案することができ、関連業種との調整能力も発揮する人材です。

また、効率的な工事推進のための優れた現場管理能力・原価管理能力を有し、建設産業の労働生産性を高めることに資することのできる人材です。登録外壁仕上基幹技能者は、塗装・吹付分野での熟練技能者、上級職長に位置付けられます。建設現場で働く技能者をリーダーシップをもって束ね、指示・指導しながら、優れた塗装・吹付工事を達成できるよう努める人材です。登録外壁仕上基幹技能者になるためには、塗装・吹付分野での10年以上の実務経験と３年以上の職長経験が必須となります。そのうえで、外壁仕上一級技能者合格者または国土交通大臣優秀施工顕彰者（建設マスター）であるという条件が必要となります。

当該資格は、吹付塗装の分野における最上位資格であります。登録基幹技能者を目指すことは、技能者が段階的にスキルアップしていくための大きな目標となります。国土交通省は、登録基幹技能者に対する経営事項審査（経審）の加点について、Ｚ（技術力）の評価項目の中で、一人当たり一律３点を加点することを決定しています。国土交通大臣に登録をした機関が実施する登録基幹技能者講習を修了し試験に合格した者は、新たに経営事項審査で加点されることとなります。さらに、大手ゼネコンの協力を得ることを通じて、基幹技能者の賃金を底上げしていけるような制度も模索されており、基幹技能者への期待は拡大しつつあります。

日本外壁仕上業協同組合連合会は、国土交通省令第３号建設業法施行規則の一部を改正する省令（平成21年４月28日付）に基づき、基幹技能者認定講習会を運営実施する認定団体として登録されました。講習は、建設業法施行規則第18条の３の６の規定に基づき「登録建設塗装基幹技能者」の認定を行う講習会であり、当該資格を取得するためには、この講習を受け、試験に合格する必要があります。吹付・塗装分野に携わっておられる方は、積極的に登録外壁仕上基幹技能者試験の受験をお薦め致します。登録基幹技能者の具体的役割は、建設工事現場の要となる、上級職長等として、以下の役割を通じて効率的で生産性の高い工事を実施する者を指します。

１．現場の状況に応じた施工方法、工程等の提案、調整等、２．現場作業を効率的に行うための技能者の適切な役割分担等作業手順の決定、３．他の技能者の施工に係わる指示、指導、４．前工程・後工程に配慮した他の職長等との連絡調整。登録基幹技能者に必要な能力は、１．吹付塗装の技術に熟達していること、２．吹付塗装の技術に関連する知識、技術の進展等に対応していく力、３．現場をまとめ、体系立った効率的な作業を実施するための管理能力、４．塗装・吹付に携わる方。

■ 受験資格・手続き・経営審査 ■

平成14年～20年に外壁仕上基幹技能者に合格された旧基幹技能者の方は、制度が登録外壁仕上基幹技能者になるにあたり、特例講習を受講する必要があります。特例講習の実施は、21年10月から24年３月までで完了となりました。